

## 連載：研究者になる！—第13回—

ウイルス・再生医科学研究所・助教 小田 裕香子

### ●調べること、実験が好きで研究者に

大学時代を過ごした京大農学部。そこは実習が多く友達と一緒に参加することが楽しかったことが思い出され、ゆったりと過ごした学生生活でした。そんな中でレポートを書くために調べものをするプロセスが好きで「研究をもう少し本格的にやってみたい」と思うようになり、大学院は理学研究科を受験しました。

大学院（永田 和宏教授）に入学してからは、新しいことばかりでとても刺激的でした。実験をすること、また先輩方と話をすることも楽しい毎日でした。大学で研究を続けるか就職するか、という何度か訪れる分岐点では、そのたび企業へ就職する迷いがありました。将来への不安から来る迷いでしたが、当時、企業のインターンに参加してみて、自分の将来は結局自分で切り拓くしかないと感じ、それならば自分の考えたことを自由に表現できる大学での研究に魅力を感じました。そういう大小の選択の積み重ねがあって今の道を進んでいます。

### ●もがき続けた先で見つけたもの

大学院時代途中からポスドク1年間は森 和俊教授（理学研究科）でお世話になり、その間ずっと小胞体ストレス応答の研究をしていました。まさにその分野が大きく発展しつつある盛り上がりの時期に研究に関わらせていただき、幸運でした。その後、月田 承一郎先生が亡くなられた後のタイミングで、縁あって古瀬 幹夫教授（当時神戸大学医学部）にお世話になりました。そこで現在の研究内容でもあるタイトジャンクションの研究を始めましたが、大学院時代と研究分野がガラリと変わったこともあり、テーマをなかなか見つけることができません。クローディングという分子群が見つかった後で、ノックアウトマウスも次々と作成され、やや成熟してきた分野のようにも感じました。やる気や努力が空回りするのが続き、自分自身を責めたり否定してしまったりしたこともありました。研究室の異動のタイミングで、現所属のボスである豊島 文子教授に拾っていただきました。豊島先生の明るい性格とラボの自由な雰囲気の中、クリエイティブなことを考えられる思考回路に切り替わっていき、ラボで購入している妊娠マウスを使って何かできないかと考えました。真っ先に思い巡らせられるのは、散々悩んで勉強したタイトジャンクションのことです。タイトジャンクションがどうやって形成されるのかという問いに迫ることは、大きなチャレンジだとずっと感じていました。タイトジャンクション形成を誘

導するような直接のトリガー因子は生体内に存在するのか。あるいはそういったものなど存在しないのか。論文を読み漁っても、こんなクエスチョンそのものがあるのかわからない。それならえいっと、タイトジャンクションをつくらない細胞とマウスの羊膜を共培養する、という雑な実験をしたのがきっかけです。「マウスの羊膜に由来する分泌因子が培養細胞にタイトジャンクションを誘導する」という結果を初めて観察した時、あまりにもびっくりして震えるほどでしたが、同時にこれは何かの間違いだろうとも思い、その後、慎重に慎重に検討を重ねました。石濱 泰教授（薬学研究科）にお世話になり、ペプチドにまみれながら精製に格闘し、石濱研の最先端の質量分析器のおかげでその分子を同定することができました（まさかペプチドが細胞間接着・タイトジャンクションを誘導するとは、夢にも思っていませんでした）。これは、私が双子を妊娠し、出産・産休／育休を経てドタバタの育児と時期が重なったのですが、男女共同参画推進センターの研究補助制度のおかげで研究を進めることができました。

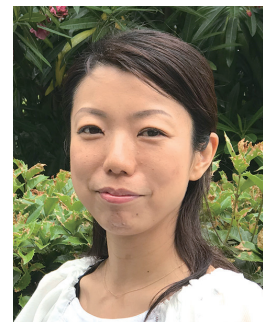
### ●目の前のことに全力を尽くす

自分の研究の話をした後、“夢あるテーマ”と感動してもらえる日が来るなんて、思ってもいませんでした。このペプチドで、もしかすると炎症やがんが治るかもしれない可能性があり、現在薬にするための技術移転の活動を始めようとしています。

双子育児と研究の両立は想像以上に大変でした。しかし、今の環境の中でできることは最大限しているはずだ、と言い聞かせて目の前のことを一生懸命に、日々の研究に励んでいます。先日、大学院時代の恩師である永田先生に「これで10～20年やっていけるんちゃうか」と励ましのお言葉をいただきました。その言葉に背中を押してもらいながら、今の成果を無事に世の中に送り出し、さらに新しくわかってきていることを自分の手で発展させていきたいです。

### 編集後記

コラム「みんなどうしてる？」では、「保活入門」の特集を掲載しています。HPのコラムページにも載せていますので、ぜひ引き続きご覧ください。皆様の体験談もお待ちしております！



Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町  
 電話 075 (753) 2437  
 FAX 075 (753) 2436  
 E-mail w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp  
 HP <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>